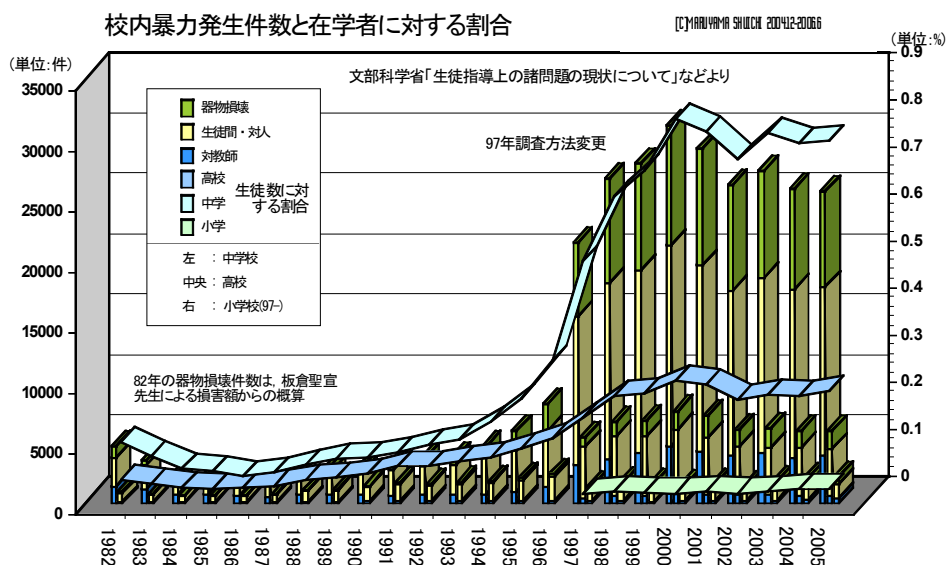


校内暴力といじめ 2007

札幌たのしい授業・研究サークル用レポート

2007.11.24

仮説実験授業研究会 丸山秀一



2007年11月、文科省は前年度における「児童生徒の問題行動等の状況について」を発表しました。その中から特に「校内暴力」と「いじめ」について見ていきましょう。

■第一部 校内暴力■

【問題】

まずは校内暴力についてです。2002 年度にいったんは減少に転ずるかに見えたのですが、2003 年度には再び増加し、その後、小学校では微増、中学校と高校では横ばい傾向となっています。では、昨年度=2006 年度ではどうだったでしょうか。

まず小学校から見ていきましょう。子どもの数が減っているの
で、件数ではなく、割合で考えてください。

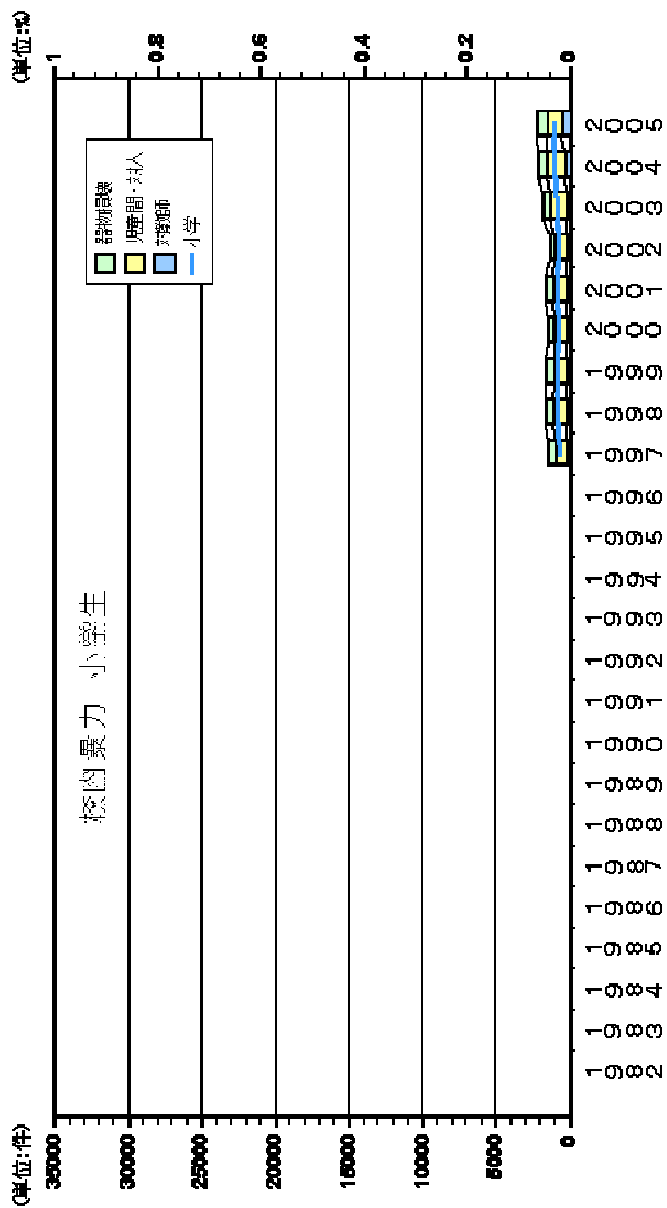
予想

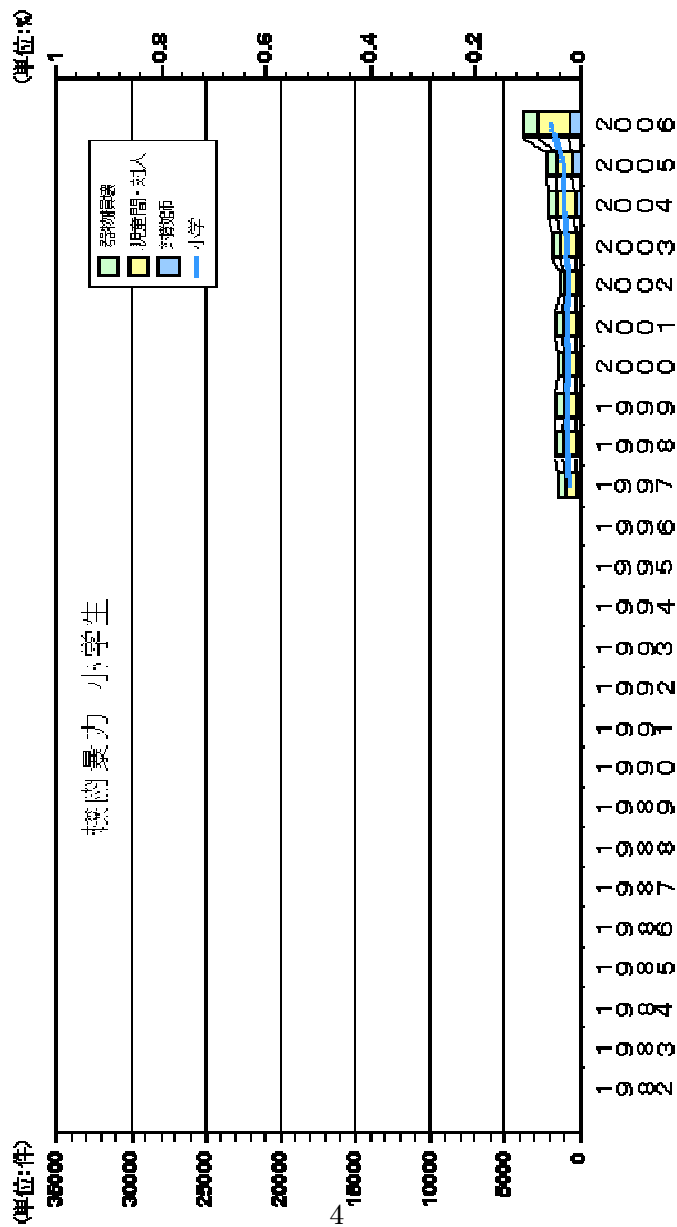
ア 増加

イ 横ばい

ウ 減少

今年度発表のものから文科省は調査対象をそれまでの公立学校に加えて、国立学校と私立学校も入れていますが、これから見ていくデータは、過去からの変化を見るため、すべて公立学校だけの調査によるデータにしてあります。





■校内暴力の増加

小学校では、発生率・件数とも 2 倍弱増加しています。これまでも微増傾向だったのですが、大きく増加しはじめたようです。

【問題】

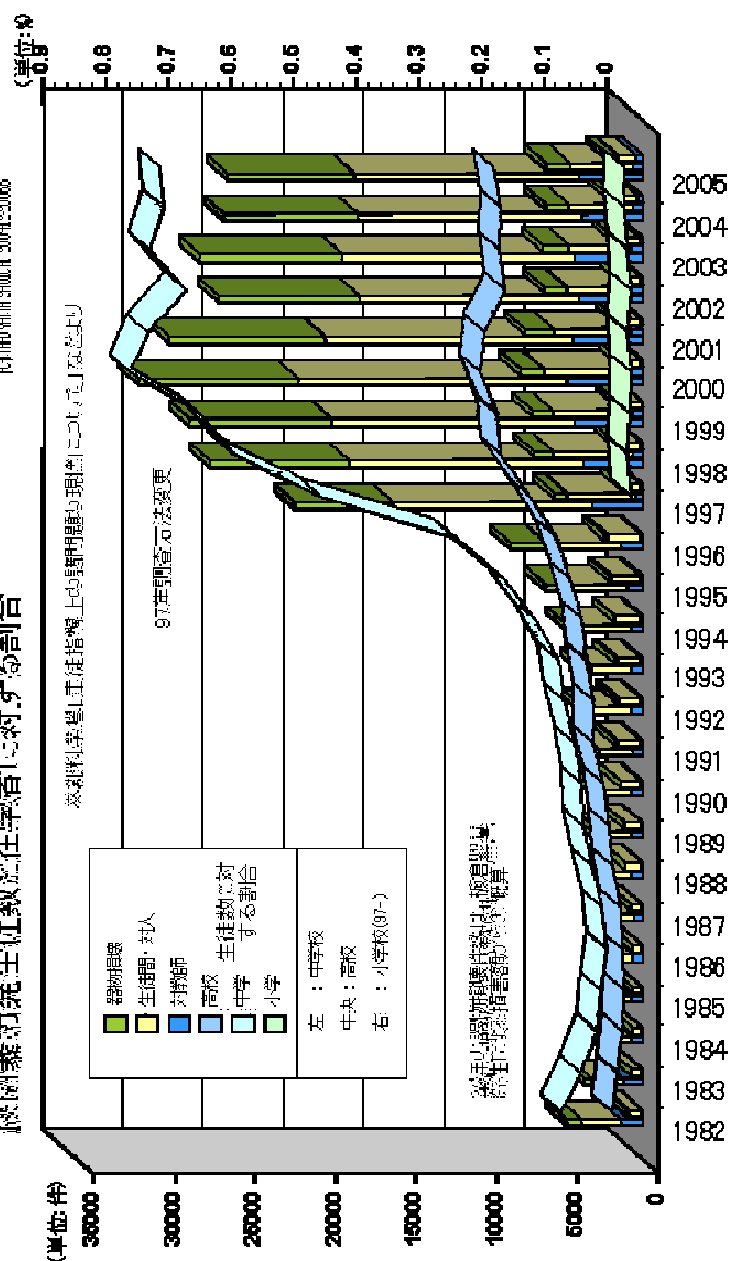
では、これまで横ばい傾向を続けてきた中学校や高校ではどうだったのでしょうか。

予想 中学校では（ ） 高校では（ ）

- ア 増加
- イ 横ばい
- ウ 減少

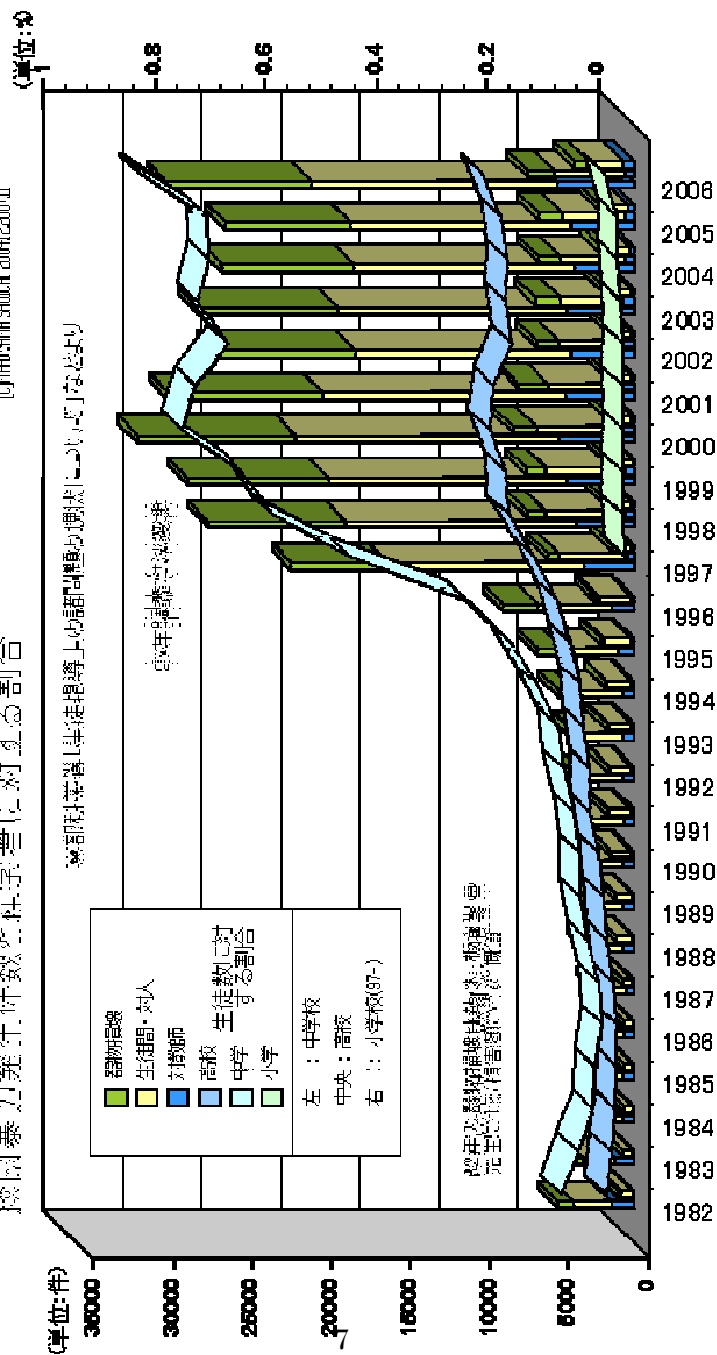
99067-1406 120145 8:24 PM 10/1/23

如何支持、指導、救濟和整頓



《中國經濟地理》

17 JUL 2004 2300Z



■増加へ

中学, 高校とも件数・比率とも 1 割以上の増加となっています。特に比率では過去最高を記録しました。このように校内暴力は、再び増加に転じたのです。

【研究問題】

今回の調査から文科省は、公立学校だけでなく、国立と私立の学校も対象にしています。では今回の調査で、公立，国立，私立という管理者の違いで、校内暴力に大きな違いがあったのでしょうか。あなたはどう思いますか。

予想

- ア そんなに違いはない
- イ 大きな違いがあった

公立と国立や私立では在籍数が大きく違いますが、それが関係してくるのでしょうか。

■ 国立・公立・私立

		件数	在籍数	割合
国立	小	5	46484	0.01%
	中	215	33407	0.64%
	高	9	8844	0.10%
	計	229	88735	0.26%
公立	小	3755	7067863	0.05%
	中	29476	3320772	0.89%
	高	873	2456231	0.04%
	計	34104	12844866	0.27%
私立	小	9	73070	0.01%
	中	6715	247348	2.71%
	高	3530	1038282	0.34%
	計	10254	1358700	0.75%

国立と公立では在籍生徒数がかなり違う（公立の 0.7%）のに、暴力発生率は、ほぼ同じ傾向です。私立学校では、中学校、高校での暴力発生率がとても高くなっています。

第2部 いじめ

【問題】

文科省は今回の調査から、国立と私立学校を調査に加えるとともに、「いじめ」の定義を変更しました。それまでの定義では「自分より弱い者に一方的に身体的・心理的な攻撃を継続的に加え、相手が深刻な苦痛を感じているもの」となっていましたが、新しい定義では、ここからいくつかの文言が削除されました。では、次の文言は削除されたでしょうか。

予想

- () 「自分より弱い者」
- () 「一方的に」
- () 「継続的に」
- () 「深刻な」

■新しい定義

新しい定義は「当該児童生徒が、一定の人間関係のある者から、心理的、物理的な攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているもの」となり、「自分より弱い者」「一方的に」「継続的に」「深刻な」の文言がすべて削除されました。さらに文科省は「調査ではアンケートなどで直接生徒児童に聞くこと」としていました。

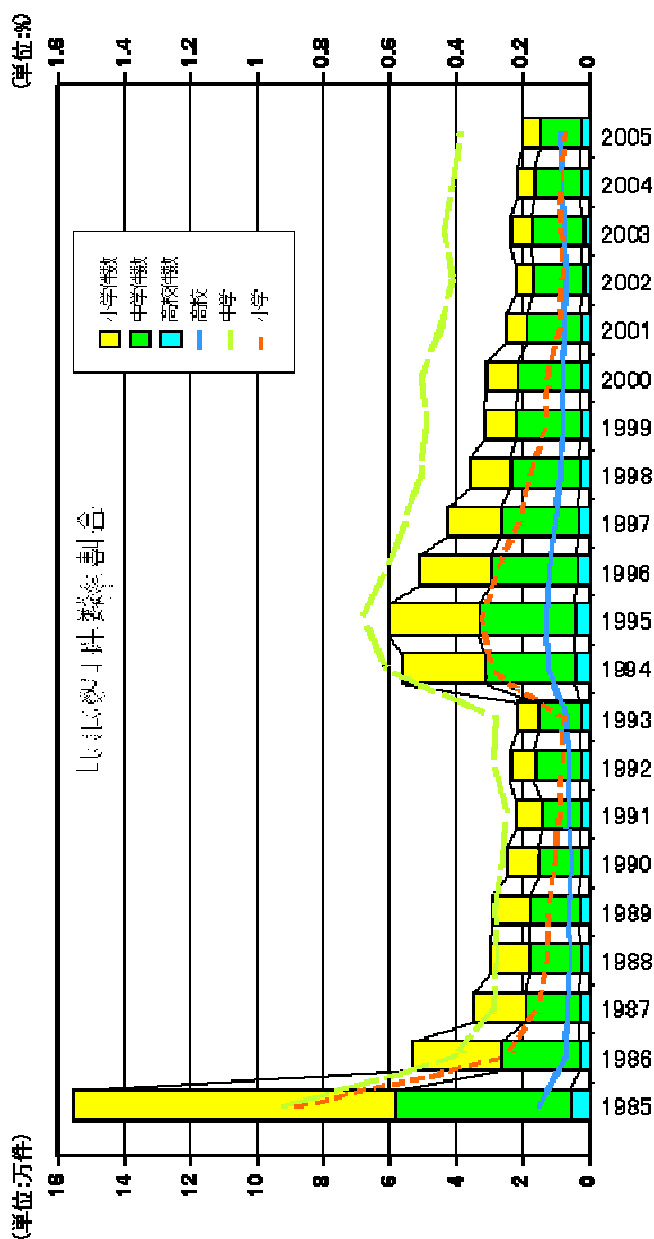
グラフのように、いじめは、件数・割合とも減少傾向を続けてきました。昨年、この結果を文科省が発表したとき、マスコミはいじめにはなんの関心も持っていませんでした。しかしその後の「いじめによる自殺事件」より、「教育基本法改正問題」ともからんで、「いじめが教育での一番の問題」とマスコミは大々的に報道を始めたのでした。それを受けて文科省は「いじめアンケート」を行ったり、このように定義を変更することになったわけです。

【問題】

かつて 1994 年度分の調査で文部省は、それまでのいじめの定義から「学校としていじめの事実を確認しているもの」という文言を削除して調査し、その結果、いじめの件数がそれまでの 3 倍ほどに増えました。それなら、今回の定義を変更しての調査でいじめの件数は増えたでしょうか。

予想

- ア 3 倍ぐらいに増えた
- イ それほどではないが増えた
- ウ 3 倍よりも大きく増えた
- エ そのほか



■「いじめ」急増

定義の変更でいじめは、件数・比率とも 6 倍に増加しました。特に小学校では 12 倍に増加しましたが、過去に定義を変更したときも小学校で急増しました。

【問題】

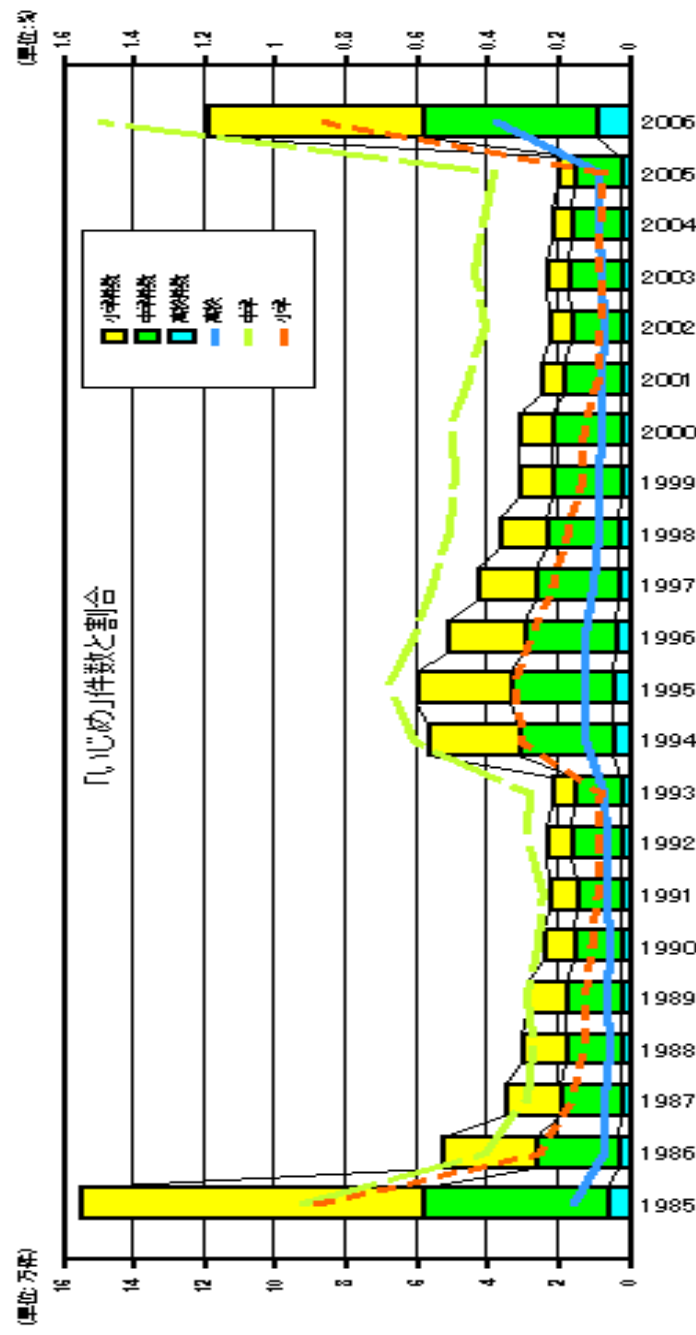
このグラフにも「校内暴力」のグラフと同様に，国立・私立学校のデータは含まれていません。

では「いじめ」では，国立・私立学校は公立学校と比較して大きな違いがあったでしょうか。

予想

- ア 大きく違っていた
- イ そんなに違いはない
- ウ なんともいえない

「校内暴力」のときと比較して考えてみましょう。



■ 「いじめ」と「校内暴力」は違う

		件数	在籍数	割合
国立	小	196	46484	0.42%
	中	239	33407	0.72%
	高	7	8844	0.08%
	計	442	88735	0.50%
公立	小	60380	7067863	0.85%
	中	49443	3320772	1.49%
	高	9166	2456231	0.37%
	計	118989	12844866	0.93%
私立	小	321	73070	0.44%
	中	1628	247348	0.66%
	高	3134	1038282	0.30%
	計	5083	1358700	0.37%

国立・私立学校は公立学校に比べるとあまりにも数が少ないので、「比較することが妥当かどうか」という問題もありますが、比べてみると、「校内暴力」のときは違っていることがわかります。

「校内暴力」では、私立学校の割合が大きかったのですが、「いじめ」では、公立学校が多いのです。

以前より何度か指摘してきたことですが、グラフなどから数量的に考えると、「いじめ」と「校内暴力」には相関関係がありません。このふたつの原因は違っているのです。

【問題】

これらの「いじめ」と「校内暴力」についての文科省発表をマスコミはどう報道したでしょうか。

昨年は、すべての全国紙が「いじめ」については全く報道しなくて、「小学校の校内暴力，特に対教師暴力増加」と「悲惨な小学校での校内暴力の様子」を詳細に報道していました。では今年はどうだったでしょうか。全国紙の記事タイトルで一番多かったのは，次のどれだと思いますか。

予想

- ア 「校内暴力悪化」
- イ 「いじめ急増」
- ウ 「校内暴力といじめ急増」
- エ そのほか

■ 「いじめ」 一色

全国紙各紙は過去最高となった校内暴力については全く無関心で、各紙とも「いじめ急増」とする記事を掲げました。(日経は、いじめと校内暴力の記事を別々に掲載)

紙名	記事タイトル
朝日	いじめ、06 年度急増 12 万件 聞き取り重視の結果
読売	いじめ把握 6 倍 12 万件…昨年度、文科省調査
毎日	いじめ：全国の小中高校、6 倍の 12 万件 自殺「一因」 6 件―昨年度
日経	「いじめ」12 万 5000 件、定義広げ 6.2 倍に・文科省 公立小中高の校内暴力、最多の 3 万 5700 件・06 年度
産経	いじめ一挙 6 倍、定義を見直し 12 万 5000 件

昨年、事実とはいえ「校内暴力小学校で悪化」という記事をそろって掲げた各紙は、日経を除いて昨年と比べて今年の小中学校の校内暴力の急増には、まったく関心を払っていないのでした。ですから、日経以外の全国紙の校内暴力に関する記述は次のような簡単なものでしかありませんでした。

紙名	記事内容
朝日	調査では、いじめ以外の問題行動も調べている。暴力行為は過去最多となり、小中高の総数で 4 万 4621 件。神奈川 7049 件、大阪 5816 件の両府県で全体の 3 割近くを占めた。
読売	校内暴力は▽小学校 3494 件▽中学校 2 万 7540 件▽高校 8985 件で、全体の 2 割弱の学校で発生。調査対象に国私立を加えたこともあり、小学校と高校が 05 年度比で 7 割強も増えた。

毎日	校内暴力は4万19件で05年度より約1万件増加した。
日経	(あとで)
産経	「校内暴力」は4万19件（前年度比5474件増）で、現行の調査が始まった6年度以降最高となった。 調査対象に国私立校が加わったことに加え、けがの診断書や警察への被害届がないものも加えたためとみられる。

読売と産経は記事で、校内暴力が増えた原因を「調査対象に国私立を加えたこともあり、小学校と高校が05年度比で7割強も増えた」などとしていますが、校内暴力が増えたのは、これまで見てきたように「国立と私立学校の分が加わったから」ではありません。また「器物破損」も同様に増えているため、「〈けがの診断書や警察への被害届がないものも加えたため〉急増した」ともいえません。

【問題】

文科省は校内暴力の割合が過去最高になったことについて、どのようなコメントをしているのでしょうか。文科省の校内暴力についてのコメントは日経新聞にしか載っていませんが、それにはどう書いてあったと思いますか。

予想

- ア 「深刻な問題である」
- イ 「社会全体の問題である」
- ウ 「特定の子どもの問題である」
- エ 「教師や学校の問題である」

■「校内暴力急増の理由」

日経の記事は次のようなものでした。

公立小中高の校内暴力、最多の3万5700件・06年度

文部科学省が15日発表した「生徒指導上の諸問題に関する調査」で、2006年度に公立小中高で発生した校内暴力の件数は前年度比18%増の3万5757件となり、現行の調査方法になった1997年度以降最多となった。小学校で大幅に増えており「特定の子どもが暴力を繰り返す傾向が見られる」（文科省）という。

校内暴力の発生件数は公立小学校で71%増の3449件、公立中学校は15%増の2万6507件だった。生徒間の暴力が約1万7000件と最も多く、教師への暴力は約6100件だった。

つまり文科省は小学校での校内暴力が急増した原因は「特定の子どもにある」とコメントしているのです。このように全国紙各紙も文科省も「校内暴力の増加」についてほとんど関心を払っていないことがよく分かります。しかし、グラフから分かることは、「教育にとって大きな問題である」ということなのです。

そして、「いじめ」はたしかに急増しましたが、過去の例から見ても、これは定義を見直したためで、実際に急増しているかどうかは、はっきりしません。しかし、各紙は大問題として取り上げたのです。

【質問】

あなたは校内暴力急増の理由はどんなことだと思いますか。

【問題】

このような「いじめ一挙 6 倍」について文科省はどんなコメントをしていると思いますか。文科省のいじめについてのコメントを載せているのは朝日だけでした。

予想

- ア 「定義や調査方法を変えたことによるもの」
- イ 「社会全体の問題」
- ウ 「原因は不明」
- エ そのほか

■文科省のコメント

紙名	文科省のコメント
朝日	同省は増加の理由として、子どもを取り巻く状況よりも、いじめの定義や調査方法を今回から変えたことや、学校側の姿勢の変化が大きいとみている。

つまり文科省は「いじめが急増したのは、定義や調査方法、調査に対する学校の取り組みが変わった結果」としているのです。

また読売の社説では文科省の「調査を通じ、いじめに対する学校の認識が深まり、対応が進んだ」というコメントを紹介しています。

【問題】

では全国紙各紙はこの「いじめが急増」という結果をどのように受け止めているのでしょうか。このことについて日経を除いた各紙は社説を出していますが、その内容にはどんなものが多かったのでしょうか。

予想

- ア 調査方法変更によるものに過ぎない
- イ もっとしっかり調査すべき
- ウ いじめ対策をすべき
- エ その他

■社説

紙名	社説の一部
朝日	いじめ調査—いかに痛みを教えるか 調査の仕方ひとつで、これほど変わるものなのか。 調査方法を変えたことで、従来より実態に近いデータが得られたと思われる。いじめの広がりや根深さを改めて実感させられる数字だ。 問題は、この先である。 ・・・しかし、いじめが起きてからの対策にとどまっていれば十分とはいえない。まず、いじめが起きないようにする。それには、他人をいじめたり差別したりしてはいけないことを、小さいころからきちんと教えることだろう。
読売	いじめ急増 メール脅迫や「裏サイト」まで… “急増”したのは、文科省が、いじめの定義を広げることで、より実態に近い数字を把握しようとしたためだ。多くの学校が児童・生徒にアンケートしたり、面談したりして、いじめの徹底的な掘り起こしに努めた。 その結果、これまで見過ごされていたいじめも数多く集計された。十数万人の子どもが、つらい思いをしたという事実は深刻に受け止めたい。
毎日	いじめ調査 数字の山から教訓を引き出せ ・・・その反省から新定義で調べた結果、認知件数が急増したとも解釈できる。だが、このような大きな件数変動は単なる「定義変更」だけからとは思えない。従来の調査は何だったのか、おぞましい面はなかったかという

	疑念もわく。 さらに、今回も地域のばらつきが出た。児童生徒 1000 人当たりのいじめ認知件数が 50.3 から 2.1 と都道府県によってけた違いの差があるのだ。実態をそのまま反映した数字とは考えにくい。調査の精度や手法、意識の差異が相当あるのではないか。
日経	(なし)
産経	いじめ調査 これでは不信感が拭えるか いじめが急に増えたわけではない。去年のいじめ自殺問題で、いじめによる自殺の件数が「7 年連続ゼロ」だったことなどに不信感と批判が高まり、調査方法などを見直した結果だ。 だが、学校や教育委員会、文科省の隠蔽（いんぺい）体質やことなかれ主義が変わらなければ、この数字も信じられない。 ・・・ いじめはネットで誹謗（ひぼう）中傷するなど、教師の目に触れず陰湿化している。保護者らと連携して責任の所在を明確にし、不信を解かなければいじめをなくす取り組みは進まない。

毎日と産経は、「これが実態とはいえない。もっとしっかりと調査すべき」というような主張です。

【問題】

朝日は社説で「まず、いじめが起きないようにする。それには、他人をいじめたり差別したりしてはいけないことを、小さいころからきちんと教えることだ」として、ある教育実践を紹介しています。それはどんな授業だと思いますか。

予想

- ア 有名人の子どもの頃の体験を元にした授業
- イ 実際にいじめを体験してみる授業
- ウ 人間の本能や正義感についての授業
- エ そのほか

■いじめ体験

朝日が紹介しているのは次のような授業です。

・・・どうしたら、いじめの残酷さを実感させることができるのか。一つのヒントになるかもしれない取り組みが、カナダの小学校でおこなわれていた。

その試みを記録したドキュメンタリーが、教育番組の国際コンクール「日本賞」でグランプリを受賞した。

ある日、3年生の教室で、教師がこう告げる。「身長が134センチ以下の方が優れていることがわかりました」

身長で2組に分けられ、背が高いグループは様々な差別を受ける。先生に抗議するが、取り合ってくれない……。それを1日体験することで、差別の理不尽さと残酷さが心に刻み込まれる。

つまり「いじめを体験させる」というわけなのですが、この方法は、もともと1968年に米国の小学校教師エリオットさんが発案して実践し、それがテレビでも取り上げられて一躍有名になったものです。

【問題】

エリオット先生は小学校3年生の授業で、子どもたちを瞳の色で徹底的に差別を始めます。最初は「青い目の子どもが優秀」として、そしてその翌日には「間違っていた。茶色の目の方が優秀だ」として、徹底的な差別教育を行いました。

では、多くの子どもたちはどのように反応したのでしょうか。

また、エリオット先生は、大人を相手にして同じようなことを

行いましたが，そのときの大人の反応は子どもたちと違っていた
でしょうか。

予想 子どもたちは（ ） 大人たちは（ ）

ア 積極的に従った

イ 嫌々従った

ウ 反発した

また，エリオット先生はどういう目的でこの授業を始めたのだ
と思いますか。

そのときの様子は NHK の番組になっています。できたら，そ
の番組を見てみましょう。

■人間と正義

エリオット先生はキング牧師暗殺で何とかしなければならないと思って、このような授業を考えたといえます。そして、彼女は「この授業の目的は犯罪防止である」と述べています。差別による「憎悪犯罪」を止めたかったのでしょう。

しかし、彼女自身「この授業は危険だ」と言っているとおり、何よりも恐ろしいのは、こういった教師という権力者の全く根拠のない差別に、大人も子どもも積極的に従い、誰も「目の色で差別するなんておかしい」と言い出さないことです。

エリオット先生の授業をまねて、カナダの小学校のルブラン先生が「身長による差別の授業」を行いました。彼女は「きっとだれかが差別に反対し、差別をやめさせようとする行動を起こすだろう」と思っていたのですが、実際は、子どもたちは積極的に差別に荷担しただけでした。

科学者の研究によると、人間には、社会生活をする本能があります。そして「社会を成り立たせるために必要なものは正義である」ということを本能的に理解しています。人間には「正義の本能」があるのです。しかし、その正義は「青い目の人間は優秀」という「正義」にも成り得るものなのです。だから「正義は怖い」のです。

【質問】

この授業は「いじめ解決」に有効でしょうか。あなたはどのように思いますか。

■あとなき 「ゆーわく」

「いじめ解決のためには、実際にいじめを体験してみればよい」という考え方は、近年大ヒットしたテレビドラマ「女王の教室」を思い起こさせます。主人公の女教師は、徹底して子どもたちをいじめますが、その理由は「人間はいじめをする動物です。将来あなたがいじめられて困らないように、今、私がいじめてあげるのです」ということなのです。

いじめは「正義」から起こり、人間には正義の本能があります。そういう「正義」のことを教えずに、いじめ体験をさせれば、「目の色や身長でもいじめができる」といういじめの教育をすることにも成りかねません。

子どもは大人たちからいじめを学んでいるのです。かつていじめ問題で文部省は教師に対して「体罰禁止」を何度も強く求めました。教師の体罰は子どもたちにとって「いじめ教育」になるからです。今も、給料カット、手当カット、評価制度・・・と様々な「いじめ」が教師にのしかかってこうとしています。本当に「いじめ解決」を考えるならば、それらを「教師いじめ」にしてはならないのです。そして、いじめに対する大々的なマスコミのキャンペーンも世論を誘導して、大衆の文科省や教師への「いじめ」になっているとしたらどうでしょうか。

「いじめ撲滅」は無理なことでしょう。でも「いじめ教育をやめる」ことならできるかもしれません。

しかし、明るい話題もあります。校内暴力が上昇傾向にあることです。子どもたちは、いじめ教育にもかかわらず、「反抗すること」を忘れてはいないのです。でも、何に反発しているのでしょうか。最近教育は大きく流れを変えようとしています。ゆとりか

ら学力重視へ、教育基本法の改正による愛国心や奉仕活動の強要・・・。

ボクの大好きな SF ドラマ「スタートレック」は、元々、「赤狩り」の時代で、ふつうには番組として取り上げることができなかった社会問題を SF の形を借りて描いたものです。その中に「互いに憎み合うある星の住民」の話があります。その星の住民は、皮膚が左右で白と黒に分かれているのですが、ふたつに分かれてお互いに憎み合い、殺し合っています。互いに「あんな醜い姿は見たくもない」というので、不思議に思った地球人が「そういうが、君たちは白と黒でそっくりではないか」といいます。しかし、彼らは「あいつらは、右（左）側が白い」と答えて、とうとう互いに殺し合って絶滅してゆくのでした。

しかし、「正義」は本能です。ボクにも、その本能の誘惑がある毎日ですなあ……。ふう。The Eagles の「I Dreamed There Was No War」を聴きながら。

丸山秀一 shusan3@gmail.com

■ 典拠文献

- ・ 文科省、平成 18 年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」について
- ・ 全国紙各紙
- ・ 丸山秀一「グラフで見る校内暴力といじめ 2006」レポート、2006
- ・ NHK 特集「青い目 茶色い目」1988
- ・ NHK「特別授業 差別を知る ～カナダ ある小学校の試み～」2006